

地域学校協働活動における体験活動

中之条町教育委員会 教育長 山口 暁夫



中之条町におけるコミュニティ・スクールの関連事業である地域学校協働活動について紹介します。この取組は、地域の豊かな教育力を活用し、教育活動のより一層の充実を図るため、各学校・学年に対応する体系的な構想を立て、「好奇心の喚起」「豊かな学校経営」「地域の活性化」を目的としています。そして、子供たちにとって必要とされる多種多様な体験活動を、地域学校協働活動本部と学校、地域のボランティアや関連団体等が連携して取り組んでいます。また、事務局を中心にして、子供たち・学校・地域への影響についてマネジメントし、常に取組の方向性を確認しています。

これまでの地域学校協働活動のよさとしては、子供たちにとって「新たな学び」「楽しさ」「わくわく感」があり、地域にとって「貢献」「充実感」「大人の学び」が感じられています。また、学校にとって「普段できない活動」「普段と違った子供の様子」などが観察されています。それぞれが、新たな発見をしています。まだ課題はありますが、体験活動のよさや必要性を、改めて感じる地域学校協働活動の取組となっています。

昨今、子供たちが置かれる環境は、直接体験の減少により、豊かな人間性や社会性などが十分に育っていないと言われていています。そして、価値観の多様化した現代において、子供たちにとって実感の伴った体験活動は大きな意義があります。体験活動は、「各教科等の目標の達成を目指した活動」としてだけでなく、「豊かな心の育成」などの側面があります。そして、体験活動を通して子供たちは、「興味・関心」「好奇心」をもちます。このことは、まさに主体的な学習や行動、人間形成の基盤となるものと考えます。

分岐点

吾妻教育事務所 管理主監 佐藤 和昭

今年度より『群馬県教育ビジョン』が示され、各校・園では「エージェンシーとは？」「自律した学習者を育成するためには？」等々、理解や周知で大変苦勞した一年間だったと思われれます。そのような状況下でも、多くの先生方が「自己決定」「試行錯誤」「対話・交流」を意識し、子供たち自身の力を信じ、学びの転換を図っている授業を学校訪問で参観することができ、大変嬉しく思っています。そして来年度は、今年度に習得した知識を踏まえて実践する重要な一年間であると思います。是非とも、校長先生のリーダーシップの下、先生方には失敗を恐れず、これまでの授業スタイルを見直して子供たちの意欲が高まるような授業展開を期待しております。また、群馬県教育ビジョンの実現に向け、各校・園が来年度の取組についての方針が立てられるように、教育事務所としての方向性や重点等を本広報に掲載させていただきましたので、参考にしていただければ幸いです。

【学校教育係】令和6年度のまとめ

今年度も各校・園への訪問では大変お世話になりました。訪問から見てきた各校・園での成果について「学校・園経営の重点」における6つの柱に沿ってまとめました。吹き出しは各校・園で実際に見られたり、紹介していただいたりした取組です。子供主体の教育活動に力を入れていただいたことがうかがえました。

【学校・園づくり】

- 組織全体での取組
- 学びの連続性
- 個の可能性を引き出す



県の教育ビジョンについて共通理解を図り、学校全体で取り組んでいます。授業や委員会活動、行事等で子供を信じて任せる場面を意図的に取り入れることで、子供たちがエージェンシーを発揮する姿が見られました。

小学校理科から中学校理科への円滑な接続のために、小・中連携に取り組みました。「理科教室の使い方」を小・中で統一したり、中学校の実践に合わせて、小学校でも問題解決の流れを可視化する掲示札を活用したりしました。



学校サーバ上に情報共有の場を作り、職員がいつでも入力・閲覧できるようにしています。子供たちの様子や職員への伝達事項など情報を「見える化」することで、全職員で全校児童を支援していくという意識が高まりました。

【豊かな人間性の育成】

- 自己存在感の育成
- 共感的な人間関係の育成
- 自己決定の場の提供
- 安全・安心な居場所づくり



授業や行事、毎日の活動の中でじっくり考える時間を確保するようにしています。深く考えるようになっただけでなく、友達と交流する場面も自然と増えました。

係活動や当番活動での前向きな取組や頑張りを見逃さず、認め褒めるよう意識しています。続けていくうちに子供たちが自信を持ち、自主的に行動できるようになってきました。



生徒が企画して運営するいじめ防止活動を行いました。いじめを自分事と考えて真剣に取り組む場となりました。何より、「友達」や「クラス」のことを意識するきっかけとなりました。

【幼児教育の充実】

- 主体的な遊び
- 小学校との接続

園児の育ちを信じて、先回りしすぎず見守るようにしました。自分自身で乗り越えられる可能性を大切にすることは、園児が自信を持って挑戦することにつながったように感じます。



時間がたつのも忘れるほど夢中で遊んでいる姿を見ると、カンファレンスで考えた環境の構成に手応えを感じて嬉しくなります。

園長先生が、隣の小学校の校内研修に参加し、「幼児教育が大切にしていること」を説明してきました。私たちも、「遊びを通した学び」がどのように「教科の学び」につながっているのか研修していきたいです。



小学校の計画訪問に行きました。生活科「水で遊ぼう」の授業で、園で使っていたマヨネーズの容器を使うアイデアが出ていました。園の計画訪問に小学校の担任の先生にも来てほしいです。



【特別支援教育の充実】

- 個別の指導計画の活用
- 自立活動で学んだことを生かせる環境づくりや合理的配慮の提供



通級で児童が「これなら苦手なことがうまくいく」と実感できたことを、連絡ノートを活用して通常学級や家庭でも生かせるようにしています。学級や家庭での様子を子供にたずねると、「前はうまくできなかったこともできるようになってきました。」と答えてくれました。担任や家庭からは、子供が困る場面が減ってきたとの報告を受け、連携の大切さを感じています。

個別の指導計画を子供の成長や実態に合わせて定期的に見直し、追記・修正しました。また、支援がうまくいかないときには適宜ケース会議を開いて、手立てを見直しています。さらに、指導後の報告を職員へ回覧し、情報を共有することで全職員で指導に関われるようにしています。



【確かな学力の育成】

- 主体性を生み出す課題づくり
- 子供主体の授業実践



北海道に関するネガティブな資料と魅力度ランキングの資料を提示しました。生徒にイメージと現実のギャップが生まれ、それが「解決したい」という意欲につながり、エージェンシーを発揮して主体的に学習に取り組み続けました。

本時の課題を設定し予想を立てた後、副読本やノートを見返す、タブレットで情報を整理する、先生や友達と対話するなど、課題解決方法を自己決定する時間を設けました。先生に言われたからやるのではなく、自分で決めたことだからやり遂げたいという強い意志を感じるようになりました。



児童の力で課題設定ができたときに、「よい課題ができたね。」と認めたり褒めたりしています。児童が粘り強く主体的に課題づくりに取り組み続けるようになりました。

黒板の片隅に教科の学習の進め方(はばプラⅡ記載内容)を掲示しています。学習の流れを共有することで、ゴールまでの見通しを持ち、自分で動き出す生徒が増えました。



教材研究では、生徒の学習の振り返りを基に、これまでの学習状況の把握に努めました。実態に応じた主体性が発揮できる課題や学習計画を設定できるようになってきました。

【健やかな体の育成】

- 健康に関する取組の関連(運動・保健)
- 健康課題を認識し、主体的に課題解決していく取組の指導・支援
- 家庭との連携

委員会活動で子供たちと睡眠アンケートを実施したり、睡眠の役割を、ICTを活用して調べたりして、自校の健康課題の解決に向けて必要な取組を、子供たちが見つけられるよう支援をしました。子供たちが主体的に活動する姿が増えました。



子供と保護者を対象に参加体験型の講演会を開催し、親子でできる軽運動について啓発を行いました。家庭における健康教育へのきっかけづくりとなっています。

体育主任と養護教諭が連携し、肥満の予防・改善のための外遊びの推奨や自己への挑戦ができる教育活動「楽しい運動教室」に取り組んでいます。学校全体で自校の健康課題の解決に向けた意識が高まりました。



各家庭で「家族けんこう会議」を開き、親子で健康についての理解を深めています。学校で行った自尊感情を高めるための取組が親子での「ほめほめゲーム」として家庭へと広がりました。

【群馬県教育ビジョンの実現に向けて】

吾妻教育事務所では来年度、授業(保育)改善を最も重視し、次のように考えています。来年度の方針を立てる際の参考にいただければ幸いです。

エージェンシーを発揮する「自律した学習者」自分で考えて、自分で決めて、自分で動き出す

「これを解決したい」
必要感や問いから
課題を自ら設定

「この方法で学びたい」
これならうまくいく
失敗してもいい

「わかった」「もっと知りたい」
自分の学びを振り返り
充実感や達成感を自覚



授業デザイン

日常生活と単元を関連させ、特につかむ過程を工夫することで、子供の学ぶ意欲が持続するような教材研究をしましょう。

環境づくり

子供の「この方法で学びたい」という意欲を支え、試行錯誤しながら挑戦し続けられる環境をつくりましょう。

伴走支援

「教える」から「引き出す」「つなぐ」へ。子供の学ぶ意欲を引き出す、子供の考えをつなぐ役割を意識しましょう。

これまで以上に子供を信じて任せる場面を意図的に取り入れましょう。

【生涯学習係】 令和6年度 事業のまとめ

地域と学校の連携・協働推進フォーラム

「コミュニティ・スクールと地域学校協働活動が支える子供の未来、地域の未来」というテーマのもと、開催しました。

郡内でも多くの学校・園が「コミュニティ・スクール」となり、学校運営協議会が設置されています。また、地域学校協働活動推進員が活躍し、地域学校協働活動が充実する体制を各町村が整えています。



講師：朝倉美由紀氏
(文科省CSマイスター)



事例発表：
「中之条町の地域学校協働活動とコミュニティ・スクール」

中之条町の事例発表では、学校運営協議会の取組や、町の特色を活かした地域学校協働活動で地域住民と子供たちがお互いに充実感を味わうことのできた事例が紹介されました。

朝倉氏の講演では、コミュニティ・スクールの必要性や意義、制度についての説明がありました。全国の様々な実例から、地域と学校の連携・協働へのヒントをたくさん得ることができました。

参加者アンケートより

- ・学校と地域の連携・協働へのアプローチのしかたを考えることができました。(教職員)
- ・学校運営協議会として何をしていけばいいのかわかりました。どういう活動なのか理解できました。(学校運営協議会委員)
- ・中之条町の取組はとても興味深く参考になりました。教育目標に向けて、地域と学校が全力で取り組む理想が詰まっていますね！(更生保護女性会)

人権教育指導者研修会

「子供たちの人権」をテーマに、社会教育関係者を対象に2回開催しました。

第1回は、子供の人権尊重、虐待防止に関わる活動団体「J-CAPTA」の矢島宏美氏と、県内団体「CAPぐんま」スタッフによる講演・ワークショップを行いました。大人が子供を守る視点と、子供が自らを守るすべを学ぶことができ、参加者の人権感覚の育成につながりました。

第2回は、参加体験型人権学習「子供と大人、何が違う？」を、社会教育主事のファシリテーションにより行い、一人一人が自分事として考える研修となりました。



第1回 講演・ワークショップ
講師：矢島宏美氏、CAPぐんまスタッフ
(J-CAPTA)



第2回 参加体験型人権学習

人権教育は人権尊重の精神の涵養であり、一生涯を通じて行われるもので、社会教育の場でも重要です。豊かな人権感覚を身に付け、人権尊重の精神が日常生活の中で生かされる地域社会づくりを目指すことが求められています。

参加者アンケートより

- ・教員やPTA向けにも実施したい内容で勉強になりました。(嬭恋村 第1回参加者)
- ・地域社会はもちろん、会社内でも知識を生かしていきたいです。(草津町 第1回参加者)
- ・何気なく見過ごしていることを、この研修のおかげで再認識できました。人の大切さ、関わることの難しさはありますが、信頼し合うことが最初の糸口と感じました。いい勉強をしました！(高山村 第2回参加者)